

2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<p>「確かな学力の育成」</p> <p>1. 基礎的・基本的な知識・技能を個々の児童の個々の実態に応じながら確実に身に付けさせる。 (1)「たつじんテスト」を活用した研究を通して、アセスメントをもとに個に応じた指導の充実を図る。 (2)授業をデザインする8つの取組を意識した授業改善を図る。</p> <p>2. 学習への興味・関心を高め、主体的に「学び続ける」子供を育てる。 (1)主体的に学びに向かう児童を目指し、(読書、英語活動、家庭学習)に進んで取り組む学習態度を育てる。 (2)めあてに応じて、ICT機器を効果的に活用する力を育てる。</p>

授業改善の重点
<p>「基礎的・基本的な学力を確実に身に付けさせるために」</p> <p>①一人一台端末やICT機器、「たつじんテスト」によるアセスメントを活用した個別最適な学びや、算数の習熟度別少人数指導での個に応じた指導、国語の基礎基本の習得に集中的に取り組む15分モジュール学習、低学年での多層指導モデルMIMを活用した読みの基礎・基本の習得のための学習などの充実を図る。 ②授業をデザインする8つの取組を推進し、毎授業における重点ポイントを明確にし、児童の学力向上を図る。 ③「Qubena」の家庭での活用や、長期休業中の家庭学習、習熟度別少人数指導の授業公開等、地域や家庭と連携した学習を推進する。</p> <p>「主体的に学び続ける子供を育てるために」</p> <p>①校内研究で培った授業作りの方策を生かし、主体的な学び、対話的な学び、深い学びの実現を目指した授業改善を推進する。 ②一人一台端末やICT機器を活用して、協働的な学びや多様な表現活動を推進して、学習内容の理解を深める。 ③各教科における学校図書館の計画的な活用、朝学習「大蔵タイム」、年2回の読書週間、担任による読み聞かせ活動等を通じた、読書活動を推進する。</p>

各教科の指導の重点	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
	<p>○低学年で多層指導モデル「MIM」を活用し、流暢性、語を正しく読む力、上学年でそれを基にした読解力を身に付けさせる。 ○15分モジュールによる漢字・語句などの学習や、系統的な書く指導などを通して、自分の思いや考えを構成を考えて書くことのできる力を養う。 ○スピーチ、討論、ペア学習を取り入れ、全学年で系統的に指導し、聞く・話す力を養う。</p>	<p>○低学年から、楽しく音楽表現をしたり、味わって聴いたりすることで、音楽に対する興味関心をもたせる。 ○曲想と音楽の構造などとの関わりに気付き音楽表現に対する思いや意図をもったり、曲や演奏のよさを見出しながら聞いたりすることのできる能力を養う。</p>	<p>○目的意識を明確にし、追究意欲の向上や子供の発達段階を考慮した体験的な学習、「考えるための技法」やICT機器の効果的な活用を通して探究する学習を充実させる。 ○全学年で教科等横断的な「福祉・健康」「国際・伝統」「地域」「自然」「防災」等をテーマとし、地域の方々など様々な人と関わりながら実社会、実生活の中で総合的に活用できる学習の充実を図る。</p>	<p>○道徳教育推進教員を中心に、「特別の教科道徳」の時間を要とした、教育活動全体を通じた系統的・段階的な指導の充実を図る。 ○「特別な教科道徳」では、教科書を主として、東京都道徳教育教材集等を活用しながら、児童一人一人が道徳的価値について自分と向き合いながら考える授業に改善するとともに、個々の成長を見取った評価を実践する。</p>
	社会科	図工科	特別活動の指導の重点	外国語活動(3・4年)の指導の重点
	<p>○社会的事象の特色や意味を考える問題解決的な学習を展開し、調べたことから考える力を身に付けさせる。 ○各学年の目標に応じた社会事象の見方・考え方を働かせるための資料提示や学習活動を取り入れた授業作りを実践していく。</p>	<p>○感じたことを交流する中で作品の題材や材料の違い、表現の面白さに気付くことができるようにする。 ○発達段階に適した「考えや思いを伝え合い、高め合う活動」を学習に取り入れ、感じ取った良さや面白さを自分の表現活動に生かすことができるようにする。</p>	<p>○縦割り活動を通して、異学年交流の活性化を図る。 ○委員会活動を活性化させることで、高学年のリーダーシップを育てる。また、異学年交流を中心としたあいさつ運動やふれあい月間など、児童の主体的な活動を通して、人権に対する意識を高めていく。</p>	<p>○歌やチャンツ、デジタル教材等を使って、英語の語彙や語句の音声を開いたり、発音したりする活動や会話の表現に慣れ親しむ活動を充実させる。 ○ICT機器を活用した授業改善、専科教員とALTが連携した指導を推進する。</p>
	算数科	家庭科		
	<p>○「Qubena」を活用し、基礎的基本的な知識の定着を図る。 ○「たつじんテスト」のアセスメントなどを基に個のつまづきや習熟度に応じた指導の充実を図る。 ○課題提示・問題把握・解決・ふりかえりの流れを明確にし、見通しをもって学習できるようにする。 ○思考力・判断力・表現力の育成に向け、図式化、立式方法の工夫など、数学的に考える力を身に付けさせる。</p>	<p>○安全に学習するための基礎的な知識の定着を図るとともに、基本的な技能を身に付けさせる。 ○学習のめあてと振り返りをさせることにより、生活に生かせる実践力を養う。 ○学習のめあてを意識しながら生活課題の改善についてジャムボードを使って意見交流する。 ○どの学習・作業においても粘り強くかつ安全に学習に取り組む意識を育てる。</p>		
	理科	体育科		
	<p>○一人一人が観察や実験を十分にできる環境を整え、体験的に結論を導き出す学習活動を展開する。 ○実験・観察の技能の向上を図るとともに、科学的思考力を育てるために、実験の予想や結果、考察等、問題解決的な活動の充実を図る。</p>	<p>○運動に親しむ態度を養うとともに、健康の保持増進と体力の向上を図ることのできる授業や体育行事(縄跳びの活動等)を推進する。 ○オリンピック・パラリンピックのレガシーを尊重した教育によるスポーツのすばらしさを実感できる授業を推進する。</p>		
生活科	外国語科(5・6年生)			
<p>○児童の思いや願いを生かした活動を重視し、個人の新たな気付きを次の活動につなげることで、自ら学んでいくスパイラルを作っていくことを目指す。</p>	<p>○日常生活について話される英語の内容を理解し、自分のことについて、先生や友達と英語で伝え合ったり、質問したり答えたりする力を伸ばす。 ○クロムブックやデジタル教科書を使い、学習した英語表現を活用できる学習場面を積極的に取り入れる。</p>			

本校の授業改善に向けて	ICT機器の活用	価値ある対話の共有	認め合う学び合う集団形成
	<p>○児童の実態に応じて、個に応じた内容やタイミングで「Qubena」を活用し、全児童の基礎基本の定着を図る。 ○「たつじんテスト」や読みのアセスメント「MIM」などを効果的に活用することで学習に支援の必要な児童でも理解ができるような授業づくりをすすめる。</p>	<p>○各教科などで互いの立場や考えを尊重し、根拠を明らかにしながら話したり、意欲をもって聞いたりできるような機会を意図的に設定する。 ○ICT機器やGoogleアプリなどを活用し、各教科等で考えを交流、比較、分類、関連付け等して、自分の考えを広げたり、深めたりできるような機会を意図的に設定する。</p>	<p>○異学年での活動を通して、異年齢の多様な考えや思いを認めたり、受け入れながらコミュニケーションを取る力を養う。 ○調べたことやまとめたことについて、自分の考えを述べたり、友達の意見を聞いたりする活動を取り入れる。発表の場面では、児童の実態に合わせて場の持ち方を工夫する。話し合う場面では、ペアやグループまたは全体など、より話し合いが効果的になるように工夫する。</p>